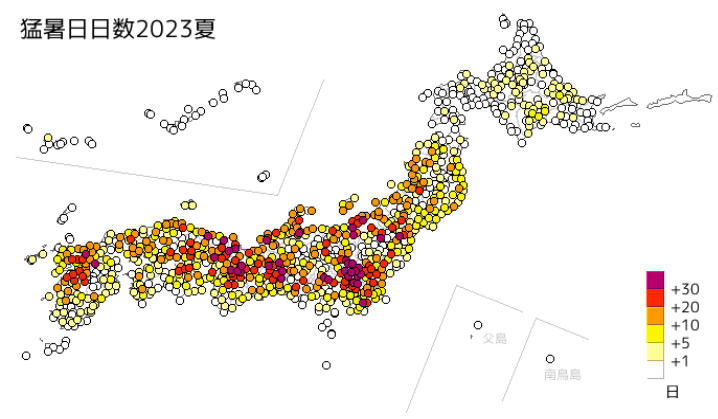


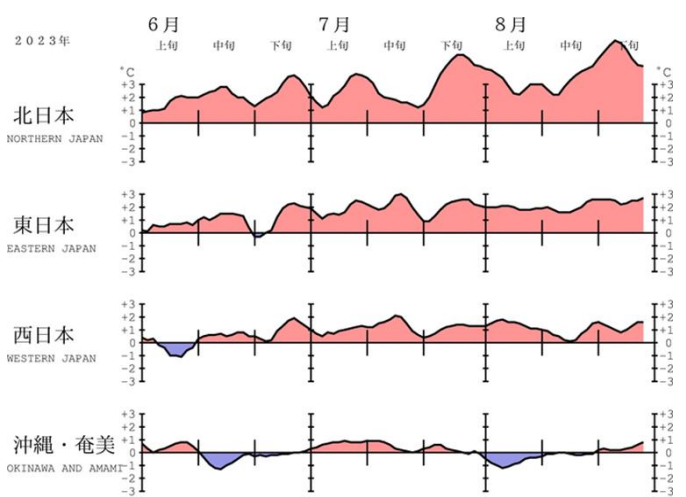
# 令和5年夏（6～8月）の気温の特徴

- 北日本を中心に暖かい空気に覆われやすく、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、夏の平均気温は北・東・西日本でかなり高かった。  
1946年の統計開始以降、夏として北日本と東日本で1位、西日本で1位タイの高温となった。（図①）
- 15地点※の観測値による日本の平均気温偏差は +1.76℃ となり、1898年の統計開始以降で最も高かった2010年（+1.08℃）を大きく上回り、夏として最も高かった。（図②）
- 全国のアメダス地点で6月以降に観測された猛暑日地点数の積算は、7月下旬以降に大きく増加し、2010年以降で最多となった。（図③）

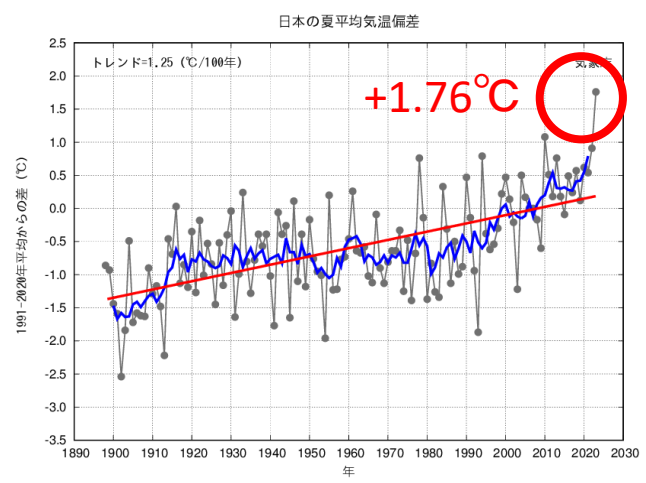
※長期間にわたって観測を継続している気象観測所の中から、都市化による影響が比較的小さく、特定の地域に偏らないよう選定した15地点（網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島）



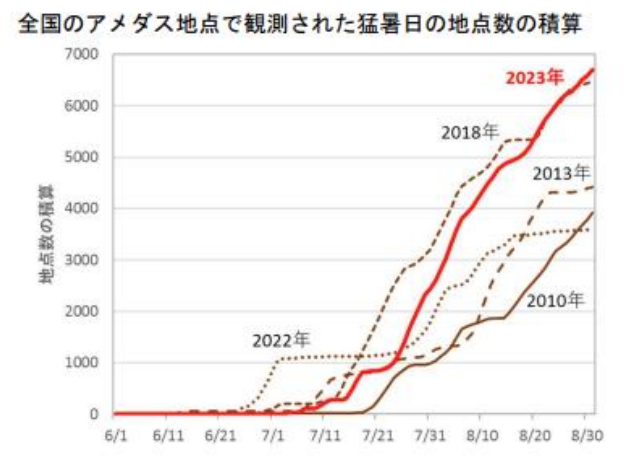
（参考）全国のアメダス地点で2023年6月～8月に観測された猛暑日日数の分布



①2023年6月～8月の5日移動平均した地域平均気温年差の推移(°C)  
平年値は1991～2020年の平均値



②15地点の観測値による日本の平均気温偏差  
青線：偏差の5年移動平均値、赤線：長期変化傾向



③全国のアメダス地点で2023年6月～8月に観測された猛暑日日数の積算